

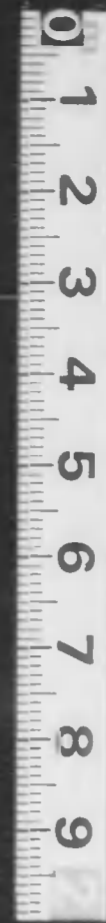
寫真週報

創刊號



編輯部報情閣内

1
13・2・16
10





任重而道遠

文彦

敬神崇祖

動員

鐵道省



「お父さん、お母さん、兄さん、姉さん、みんな揃って、お家に帰りたいよ。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、みんな揃って、お家に帰りたいよ。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、みんな揃って、お家に帰りたいよ。」



兄の試練の回帰・銃後の力

— 静岡田方郡内浦村・内浦村 —

夫は戦地に、兄も戦線へ、留守を守る母が、妻が、妹が、野良の歸り、家仕事のひまに留守の社に集つて祈るは慰ましいものな。武運長久、戦ひの勝利、しんと鎮まる神城に度ましく頭を垂れる、神と人との離れ合った素朴にして崇厳なる日本の姿。

乙女心の紅襷をきりりと十字字、束ね髪に手拭、脚絆地下足袋も非常時姿、若き日の思ひも胸に抱めて、謙弱い手ながら帰る鎮にも銃後の力、出征勇士に家をおもはせまいとの優しい心づくしに、健気にたち働く女子青年團の労働奉仕。蜜柑畑に早春の陽がさんさんと。

えいッヤッの掛聲が大気に響いて竹刀に火が散るかとはかり、労働の土にまみれた身を拭ひもあへず、再び流す汗の若さ、日本精神はここに始えあけられるひろびろと拓かれた大地に風は流れ、富士は白く怒然たり！農民道場のはととき。





翻へる
五色旗

慶祝中國更生



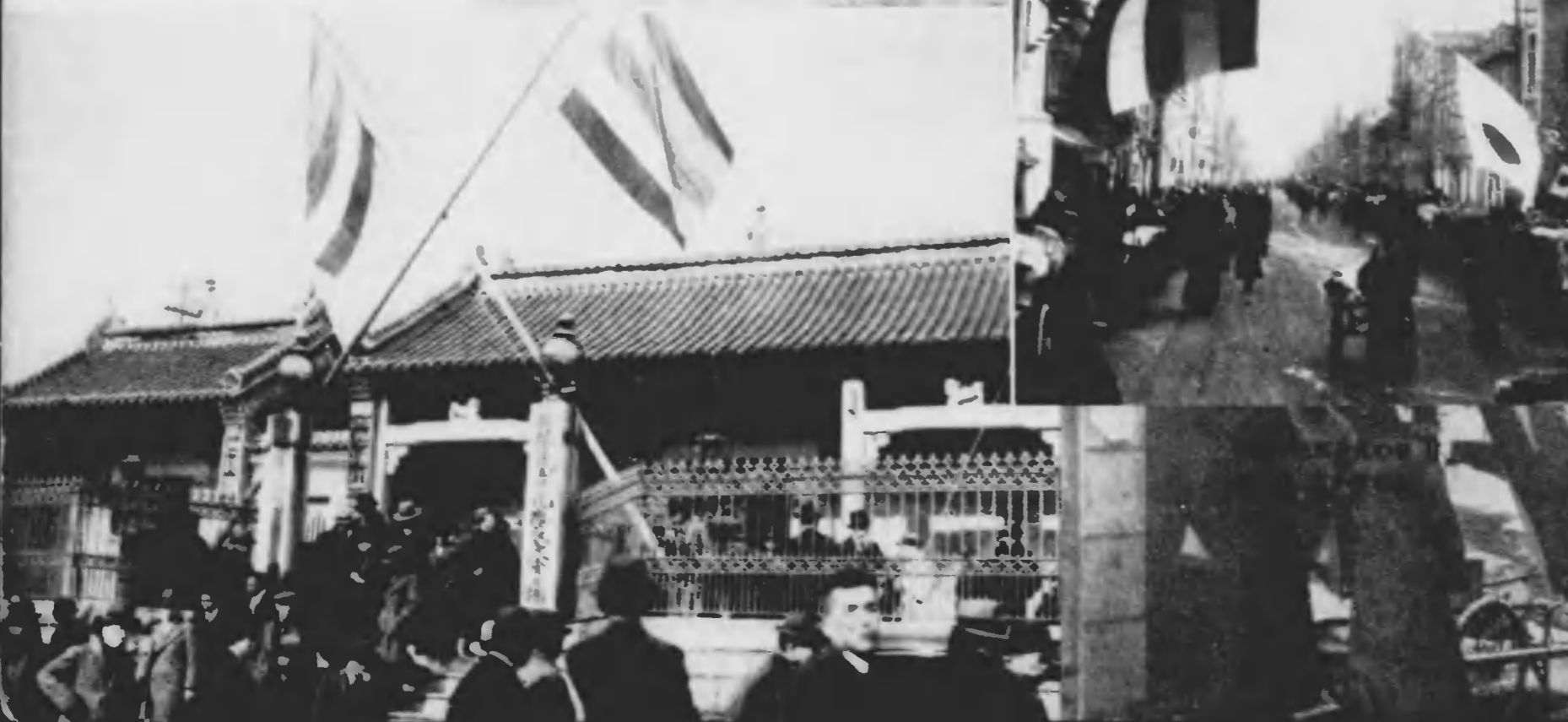
↑ 商大版大にも晴れ五色色
(大版日川)。旗は翻へる



↑ 帝華にも、華僑學校の五色旗。(東京豊島)
 ↓ 横濱中華公立學校の並び。(横濱山下)

↑ 一月十八日、神戶に在る中華會館の慶祝大會の開幕式(神戶)。

中華公立學校



↑ 一月十七日、青島にも五色旗は清浄な白雪に飾り。(青島)



↑ 五色旗の旗のもと、双烟を並生にひきしめて。(北京)



↑ 日語學校も開かれた、和平の春風が「イロハ」を乗せて。(濟南)

ずせと手對

—畫漫問週—



厚生省とは

「何をやる所ならうか?」
 なる精神は健全なる身體に對し
 長期持久の支那事變下、日本は、健全なる精神と身體を
 求めてゐる。外に、近世史上付つてない大仕事をなしつ、
 ある日本は、内に、國民個々の體力の向上、衛生の究極、
 病魔の豫防、社會施設、労働の合理化、保險制度の普及に
 一層務めなければならぬ。健全な日本民族となつた時の
 喜び、この喜びを生み出さうとするのが新設厚生省である。

厚生省



建國體操（神田、國民體育館の冬期練習會）體力局



てつよに後継の保保局は時常非の庭家 8
院院保
托は遠供子つもを母く備 9
馬會社 へ所見

続 ほと省生厚

進増の社福と上向の力體民國

はも事非の保保、保保局、保保局、
院院保、るれめ地に定て手の省生
いし忙し各自及協守保保局マゼンマ
・メンマカわて中し神手おのり過馬
馬力體、續マゼンマ
マゼンマの導馬マゼンマの立役に後継
馬會社



業職、うやし化理合も件條働勞、生働働勞 4
小)馬働勞、だ業事の省生厚な切大も介紹
(てに所介紹働勞數一川石
事會社、防像の病染傳、專指生衛の住食女
濟、芝)馬生衛、に全完も療施のてしと柔
(てに院兒乳會生
で村漁農、もで働工、もで社會、もで働官
ノよへ殿、も女も男、もき若、もい老、も
馬力體、を體身の等我
は談相助扶事軍の館面方、體圖方地廳官各 7
馬會社、だり護の後統な切大





—東京東京—
山富士の自然の中、活動する国民が
仰ぐ丸の日の富貴、山の自然の中、活動する国民が
仰ぐ丸の日の富貴、山の自然の中、活動する国民が
仰ぐ丸の日の富貴、山の自然の中、活動する国民が



はに領受便服のへ馬車運送
出陣準備ともれどもれども



ふ味を配するす飯場に鍋んでお



陣中の楽しみもの最たるものは馬車運送の御座り

もまた一興、動物の殺しと一時をボール紙で通つた特
徴を備はすなんどもまたたは、笑ましくも陣中風景に
今日なほ出陣する隊の神話にはかつての道草にも
さる辛苦を味ひをり、かゝる間に無量の雨の突
火の集ひ、露天に晒ひおでん、雑沓の野暮を味ひ
ふと驚めて悠々たる白雲に見果てぬ夢を眺むなど
た想ありと申すべし
さるにても陣中の楽しみもの最たるものは、馬車運送と
馬の便り、給水に、糧食受領にとそれ、陣中風景に
れどもと志願書提出の有様、いかに配られた手紙を
之れこそ戦場のわかれ時、想はずに、戦場の力、
この上ともどし／＼と、長閑に入り、戦場の
が帝國の運命を賭するの時、戦場の力は、戦場の
引受け無敵、戦後のことは、戦場の力は、戦場の

あるとどきに敵のクックをれ敵のひ



さし集の領受食糧と水給



せさを入手に軍床人那支な用器で



り運に糧谷洋西たれさ環に糧

陣中、新年初々のお慶り〇〇にて落手、御前様は
じめ皆々元氣にて御慶りのこと何より嬉しく、小生も
陣中ながら配給の難状に故郷を思ひつゝ新年を迎へ
恙なく勤続いたし居候へば何卒御安下され候儀
思へば出征以來の夢の如くに候、息をもつが通
撃に連撃、火一途に敵を逐ひし昨日のことの如く
今や冬の陣に入り、夜衣のご様に征伐はかなる思
ひ有之候
陣中のことより不自由ながら、物質もいまでは相
當に備わたり、困苦の日々のうちにも戦線からは
の楽しみもまた大層あり、小生御慶りの如くいまで
は一寸見られる舞を立て候も元はこれ無性無名で
暖い日向にて器用な支那人床屋に手入をさせつゝ
ら／＼と致すもその一つ、戰場に置かれた西洋器
器、もとはコッパさんだつたといふ戦友の流れてく
れるコーヒーをのみつゝ、過ぎいくさ話に花を咲かす

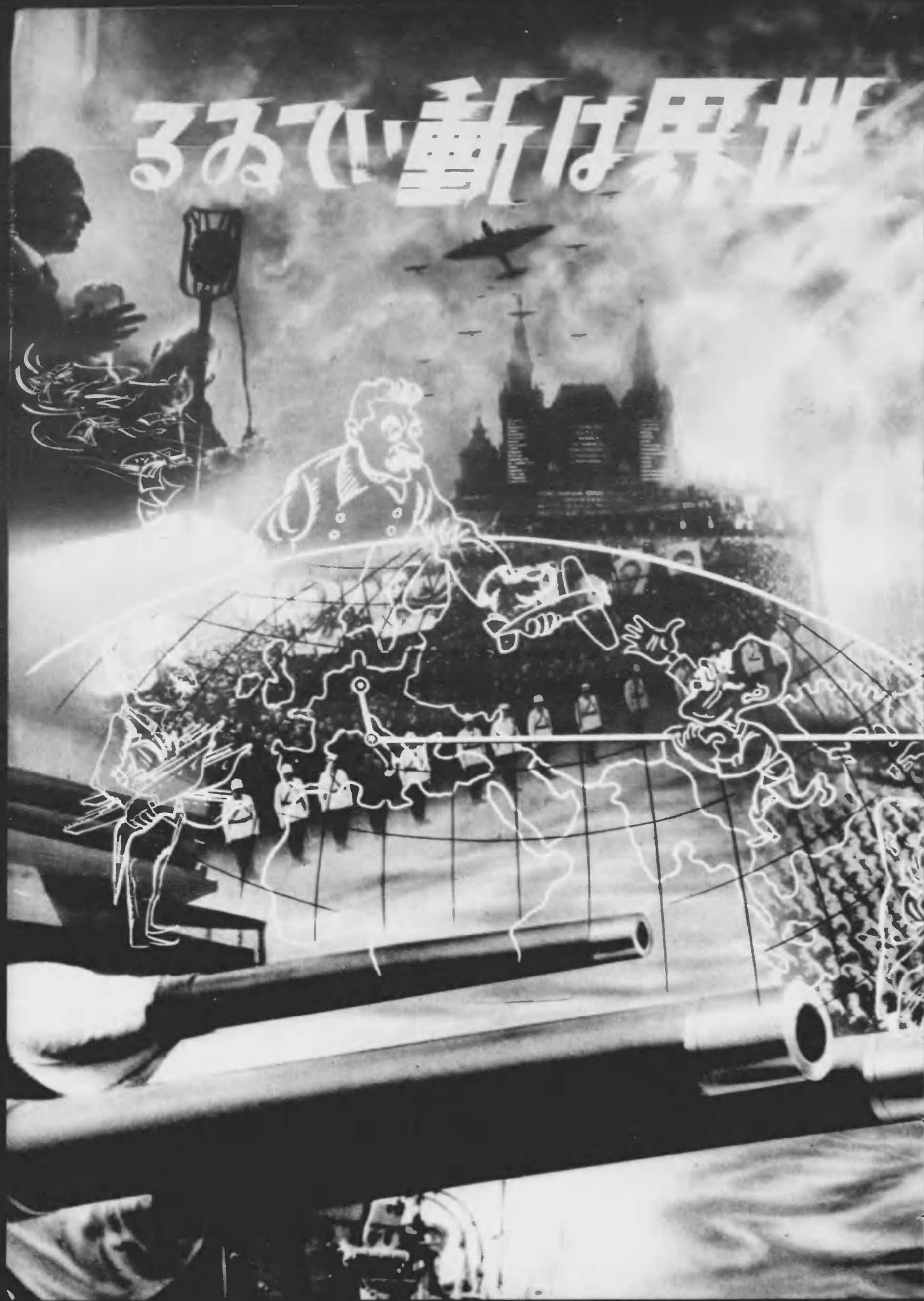
戦線より故郷へ
楽しい陣中だより



ひ集の火災の朝の警備



すは圖を模範たつ途で紙ルーボを時と一の暇の務



抗日教育に狂奔せる支那小学校用図説掛圖



思想戦より

國家の興隆は國民思想の健全である。而して思想戦は現代國際角逐場裡に於て外交戰、經濟戰、武力戰等と共に平時及戰時を通じて行はる、闘争形態で、其の優秀勝負は國家隆替の岐る、所である。右に鑑み内閣情報部は思想戦展覽會を開催し、帝國内外に満ちる思想戦の全貌を周知せしめ其の重要性を認識せしむると共に、日本精神の高揚を圖り舉國一致、外來の思想戦工作に對處し、時難克服に資する事となつた。此處に展示資料の中より若干を拾つて見よう。

會期 昭和十三年三月九日 至二十六日
會場 東京市日本橋區高島屋



中華民國新政府の誕生を壽ぐ彩色ホスター

抗日教育盛んなりし愛國女學校學生の作文一抗日的基本答案



市ヶ谷刑務所に於て認めたる佐野學堂に對し其の轉向聲明書

抗日教科書の數々
中央は註目をいいたる
南教科書の領上由積長
圖解の一部

某國スパイの携帶せる
懐中電燈に偽裝せる爆
彈と分解せる内部



岡山貞親が獄中より
なした轉向上中書





朝の影を電を映し
校學上島田永良



3 氷溢に街

曲 進行 國 愛

の進行大、くまの街をめぐり
る出れ道、道にみよ、方なく住
一様、る福は道に愛氏の人若

小僧さんもし笛で

舞臺からも
「闘争と守れその正義」
有樂座一日興行

とびのひの「くまの街と光」
神樂は前進行國愛、手は、其を寄
有樂座一日興行

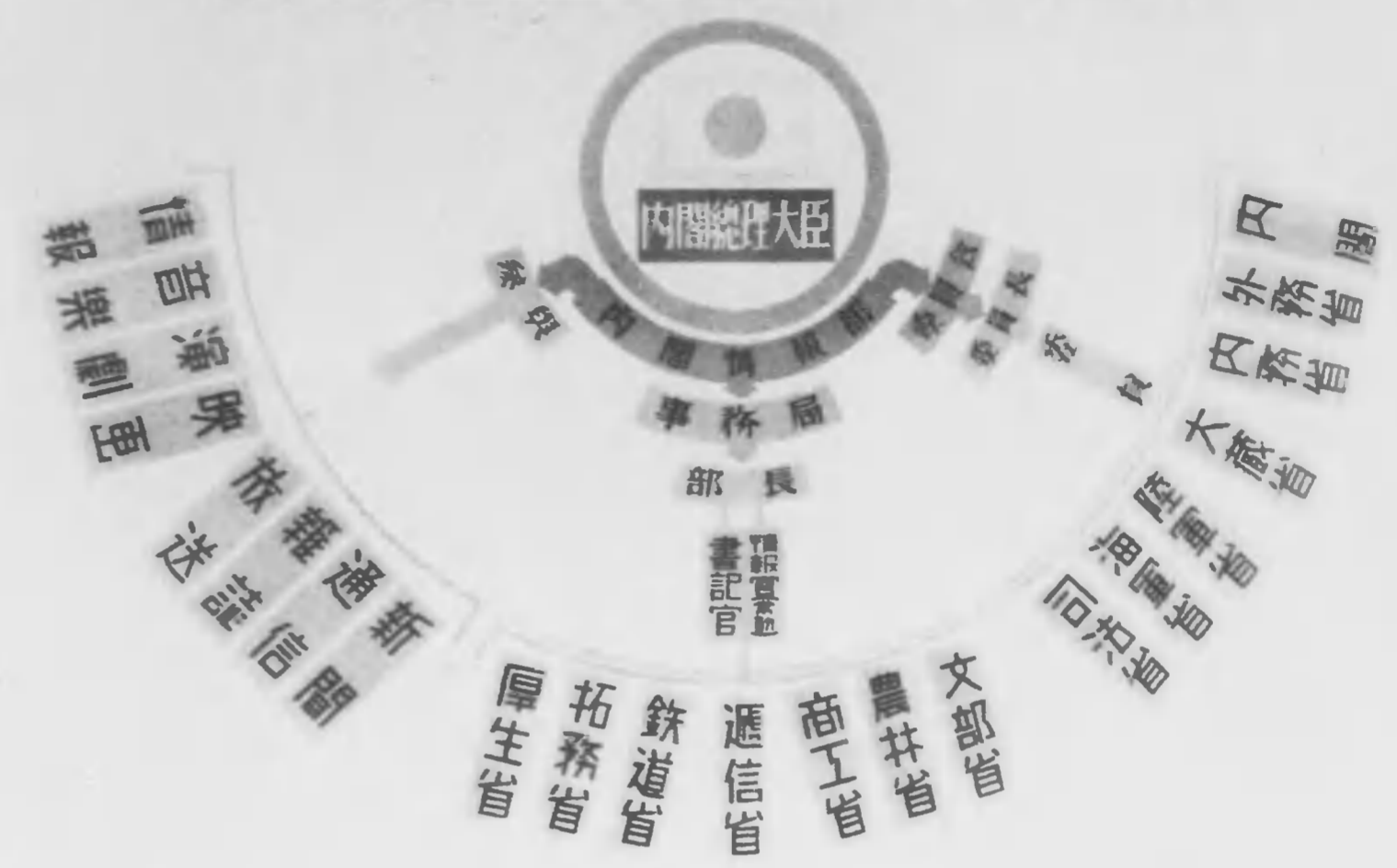
神精本日より燃



武器なき戦ひ
世界に渦巻く
思想戦展覧會

主催 内閣情報部
會期 二月九日より廿六日まで
會場 東京日本橋 高島屋

内閣情報部の組織



創刊の言葉

内閣情報部に於ては週報を發行し、政府の行政の意向内容を深く一般國民に傳へて其の正しい理解を求め公正な輿論の聲を聞き、又法令の趣旨や内容の普及を期し、其の他政府の各種機關に依つて得られる内外の情勢、經濟學術技術等に関する資料を公表して参りました。皆地方の御理解と御支援とに依りまして其の特色の週報は次第に深く御愛顧され利用されて来ましたが、これは編輯者として誠に喜ばしきことと共に又責任の重大なるを感して居るやうな次第です。

◆ 今般週報を發行するに至りました所以は、全く前記週報の適合と同様でありまして、只電報連成の手段として文字に代るに専ら寫眞を以てしたるに外ありません。即ち寫眞週報と週報とは是處から、採集補綴、相寄り相俟つて國民の啓蒙宣傳に致して行くつもりです。週報が國策のパンフレットともいふべき特殊誌であります。新たに誕生した寫眞週報に對しても特色の週報と同様の御理解御愛顧を願ひたいと思ひます。

◆ 寫眞週報は官民各種關係者に全頁の大部分を開放し、これらを通じて得られる寫眞を所謂國策の輪に沿つて内閣情報部が編輯するといふ事に致したいと思ひます。寫眞週報規定は次第に発表。

◆ 新聞はいはば對面のやうなものでせう。自己紹介の意味で内閣情報部とはどんな仕事をしておるところかを説明致します。此の週報は内閣情報部の管理に關し情報宣傳に關する各事務の編輯でありましてその職務は

- 一、 國策遂行の基礎たる情報に關する各事務の連絡調整
- 二、 内外報導に關する各事務の連絡調整
- 三、 情報宣傳に關する各事務の連絡調整
- 四、 各縣に屬せざる情報蒐集、指導啓蒙の業務

今週のキメラ

表紙 紙 千原 一 鐵道省及國際
近 藤 藤 木村伊兵衛氏
内閣總理大臣 五十嵐與七氏
見よ試験の日本 特
鉄後の五色旗 同
厚生省とは 梅本忠男氏
ラヂオ體操 特 梅本左馬次氏
戦線より故郷へ 同
世界は動さぬ 同
思想戦展を見る 同
街に溢れる 國際報道
愛國行進曲 寫眞協會
木村伊兵衛氏

寫眞週報(禁煙版)

昭和十三年二月十六日印刷發行	發行所	内閣情報部
印刷所	大日本印刷株式會社	東京市牛込區市谷
加算部	東京市牛込區市谷	加算部
定 價	一 部 十 錢	一 ヶ 年 (前 金) 四 圓 八 十 錢
所 達 申	全國各地官報販賣所	東都書籍株式會社
	最寄書店・郵便店	寫眞材料店

國民策の泉
國民の常識



毎水曜日發行

見本御希望の方は内閣印刷局宛御申出下さい

内閣印刷局

全國各地官報販賣所
最寄書店・郵便店
寫眞材料店

富国週報

第三種郵便物認可

昭和十三年二月十六日発行

(毎週一冊水曜日発行)

第一號

皇軍の向ふ敵なし

富國徴兵

出賣保險 是子供の保險

本社 東京 日比谷

社長 根津 嘉一郎



(本書の大きさは縮尺規格A4判)